

LDL コレステロール治療は心臓血管病予防につながらず

心臓血管病患者のうち中程度から高リスクの者をリスク別に分けると、4つのグループ、すなわち「心臓血管イベントの既往あり」、「糖尿病あり」、「LDL コレステロール値が 190mg/dL 以上」、「10 年心臓血管リスクが 7.5%以上」に分けられ、それぞれコレステロール低下薬による治療が行われている。

本研究では、35 件のランダム化比較試験を対象に、LDL コレステロール低下治療が心筋梗塞や脳卒中の発症や死亡を予防できているのかについてシステマティックレビューを実施し検討した。その結果、心臓血管リスクに基づいた LDL コレステロール低下治療には一貫した効果が認められなかった。

今回の結果から、LDL コレステロール低下を目標としたランダム化比較試験の多くがその目標の達成に失敗しており、LDL コレステロール値の低下治療が心臓血管病の予防につながらないことが明らかとなった。また心臓血管病治療において、高リスクの患者を適切に判別できず、低リスクの患者には不要な治療を行うことになることが危惧される。

出典：British Medical Journal. Evidence Based Medicine. 2020 Aug 3;

bmjebm-2020-111413.